

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0770201143 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会 | | |
| 事業所名 | グループホームみなづる | | |
| 所在地 | 福島県会津若松市河東町郡山字中子山25番1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年11月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年12月3日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、日々の生活の中で「利用者第一」そして利用者一人一人の尊厳を尊重し常に笑顔で接する事を目標としています。利用者が生き生きと暮らせるにはどうしたら良いか職員間で意見を出し合いながら日々のケアを実践しています。また延長としての家事援助も行っており、食事作り、掃除、洗濯たみ等も楽しく取り組める様支援しています。今年もコロナ禍という事で、外出行事や地域の方との交流等控えている状況の中、室内で楽しめる行事を中心に四季折々を感じられる様取り組み、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.介護計画は、アセスメントや丁寧なモニタリングから本人の現状に合わせて作成しており、カンファレンスには家族も参加し意見や要望を聞いて反映させている。
 2.食卓委員会が嗜好調査を行い、好みに沿った献立を立て、利用者は調理・盛り付け・食器洗いを積極的に手伝っている。また、毎月の手作りおやつ会では職員と利用者が得意なおやつを手づくりする等、楽しみややりがいを感じられる取り組みとなっている。
 3.事故とヒヤリハットをデータとしてまとめ、発生時間帯・場所・個別の発生件数を分析したものをグラフで示し、職員会議でリスクを検討し事故防止へ向けた取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は5項目掲げており、毎月の職員会議時に理念唱和を行っている。共有する事で理念に基づいた介護を常に念頭におく機会を設けている。また理念は職員の目の届く所に5箇所掲示している。 | 理念は、地域密着型サービスの意義をふまえており、職員が目につく休憩室等5か所へ掲示している。また、毎月の職員会議時に唱和し、理念を共有して実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年もコロナ禍で地域の行事が中止となり、直接地域のつながりはなかったが、ご近所・駐在所・消防署など関係機関へは、毎月発行している広報誌を配布し、ご利用者様の元気な様子を見て頂いた。 | 社会福祉協議会が運営する事業所としてすでに地域との繋がりはできている。現在、ボランティアの来所等自粛しているが、毎月発行の通信を家族・運営推進会議委員・駐在所へ配布し、事業所の理解を得る工夫をしている。また、コロナ禍ではあるが、学生の実習生を受入れ、介護人材の育成に協力している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 福祉を目指す学生や他事業所の方に実習の場を提供している。また、認知症カフェを開催してミニ講話などを行いながら認知症の理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | コロナ感染拡大防止の為、毎回收集出来ず中止した時は、全職員に書面での報告をし、2ヶ月に1回の開催を実施した。会議時には、意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。 | 現在コロナ禍にあり、状況を見て書面報告となる場合もあったが、事業所外の会場を使うなど工夫して開催している。事業所から、利用状況・実施行事・ヒヤリ・ハット報告等細部にわたる事業内容の報告があり、委員は積極的に意見交換をしている。いただいた意見をサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の実地指導・自然災害時の状況報告・防災訓練の通報訓練にも参加協力を得たりと事業所の取り組みを伝え連携を深めている。 | コロナ禍前は、担当課が実地指導に来所していたが現在は無い。事業所は市社会福祉協議会が運営しており、市への報告は法人を介して行っている。管理者は、就任時担当課へ挨拶に行く等顔の見える関係の構築に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は夜間帯は施錠しているものの、日中は施錠せず扉が開くとチャイムが鳴るシステムにしている。利用者が、外に出る時は付き添うケアをしている。また年に4回身体拘束適正化委員会を開き、会議の内容を周知し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。 | 委員会を定期的開催し、職員会議で報告している。年間を通し計画的に研修を重ね、禁止行為等を理解しており、チェックリストで確認している。また、事故とヒヤリ・ハットを分析し、傾向と対策を検討する等、身体拘束や虐待ゼロに向けた取り組みをしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている | 定期的に行われる内部研修でも虐待防止について学ぶ機会を持ち、当事業者に起こりうる事など毎日のミーティングで話し合い、また毎日の入浴時等もアザ等の確認は必ず行い職員間の情報の共有も行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入所者や共用型認知デイで成年後見人制度を利用されている為、関わる事が多くなってきている。研修会で権利擁護についても学ぶ機会を持ち、理解出来るようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、改定時、特に加算については家族の不安や疑問にも随時対応し、理解、納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎月行うカンファレンスや、面会時、日常の連絡等で話をする中で、要望・意見等を出して頂いている。またコロナ禍で4回行われる家族会も中止になったり面会等も状況を見ながら緩和している。 | 利用者からは、日々のふれあいの中や居室担当職員が思いや要望を丁寧に聞き取りをしている。家族からは、面会が自粛中であるため電話や家族同席のカンファレンス時に意見・要望などを出してもらい、出された意見は運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回行われる職員会議や日々のミーティング等では職員の意見等をいかし共有する事で、サービスの質の向上に反映している。 | 管理者は、業務の中で丁寧に話を聴き取ったり、職員会議で積極的に意見を出してもらい、介護方法の提案や備品整備など出された意見を運営に反映させている。また、休暇や法人内異動等の勤務体制にも希望を聞き取り対応している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得状況や経験年数・勤務状況などを考慮したうえで職員一人一人業務に対する向上心や意欲が持てる様、話し合う機会を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経験年数や介護力を見極めながら、適応する外部研修等に可能な限り参加している。また月1回の内部研修も行うことで学ぶ機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 今年もコロナ禍の為、交流する機会はなかったが入居状況の件で他事業所との確認時では情報交換を行うこともあった。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者本人が気兼ねなく不安や困っている事、要望等を話せる様、また本人・家族・ケアマネなどで今後の課題や問題点を話し合いながら利用者本人が安心して過ごせるよう支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の立場としての不安や困り事、要望を話せる様、実態調査時に確認し合いながら、家族が望む生活が出来るようお互いの信頼関係作りにも努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実態調査を行う事で、現在の状況を把握し関係する団体と連携を取りながら本人にとって安心できる支援を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同生活の中で自分の役割が持てるよう施設内の清掃・食事作り・後片付け・洗濯たたみ・裁縫など行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍で家族会等の行事は実施出来なかったもののリモート面会が出来る様希望される家族にも周知している。また定期受診は家族にお願いしているが出来ない時は相談して頂きながら関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で故郷訪問は実施出来なかったが、お盆やお彼岸には墓参りに行くなどして、馴染みの人や場所との関係が途絶えないよう支援している。 | 利用者が住んでいた地域の神社や職場へ故郷ツアーとして訪問を実施し好評を得ていたが、コロナ禍で自粛している。現在は、家族の協力によるお盆・彼岸の墓参りや通院で外出し、馴染みの場所等との関係が途切れないよう支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の座席のこだわりや会話の合う方など利用者一人一人が気持ちよく過ごせる様、また孤立せずコミュニケーションが取れるよう配慮しながら支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ターミナルケア等でサービス終了された家族の方からの支援や繋がりがあり、関係を断ち切る事なく相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 穏やかな日々の中での日常の会話などから利用者思いをくみとり本人の希望に沿える様取り組んでいる。その都度職員間でも話し合い本人の思いも大切にしながら支援している。 | 入居時に利用者・家族から生活歴や性格、好まないこと等をアセスメントし把握している。また、日々丁寧に話を聞き、希望や意向の把握をしている。困難な場合は、家族からも助言を得て、職員間で話し合い本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を活用したり、これまで関わってきた事業所や家族より生活歴など伺いながら経過等を全職員が把握し支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の様子はケース記録、介護経過記録に記入する為、バイタル・入浴・排泄・食事・服薬は全職員が把握している。変化があった場合は、記入したうえでミーティングでも再確認し、周知している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族も参加されるカンファレンスを行い、担当職員・看護師・計画作成担当者が話し合いをする事で、利用者の現状を把握し、また本人の思いも考慮しながら計画を作成している。 | 入居時に利用者・家族のアセスメントから4か月を目処に介護計画を作成して。日々の記録、居室担当者が利用者のモニタリングを行い、家族同席のカンファレンスで意見、要望を出してもらっている。チーム一丸となって計画の作成や見直しを行う他、状況変化時にはその都度見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の支援経過記録、業務日誌などに加え毎日の申し送りの中で職員の気づきや利用者の変化を話し合いながら情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 定期受診、インフルエンザ予防接種、突発的な受診対応や、介護保険の更新申請、買い物や外泊など、その時々々のニーズに対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 例年だと地域団体の料理教室や認知症カフェへの参加など行っていたが、今年は実施出来なかった。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族等の希望に沿ったかかりつけ医に受診し、訪問歯科や往診なども行っている。各自かかりつけ医とも利用者の健康状態の報告や適切な医療についても話し合うなど連携をとり関係を築いている。 | かかりつけ医への受診は家族が同行し、家族対応が困難な場合は職員が同行している。家族にバイタル記録を渡し生活状況を説明し、主治医に伝えてもらっている。職員が同行した際は電話で結果を家族に伝えている。受診が困難な場合は主治医に相談し、往診対応を依頼している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々、利用者の状態を観察し異常や変化があった場合は、記録に残し看護師への申し送りを行っている。利用者の特変等で救急搬送時も同行し病院とも連携をとりながら支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には病院への情報提供を行いながら、入院中も利用者の状態を確認するなど情報交換や相談に努めている。退院時も看護師も同行しその後のかかりつけ医との医療に繋げていける様に関係作りも行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態が悪化した場合、早急にカンファレンスを開催し本人の現在の状況の報告や今後考えられる事などを話し合い、家族や職員も確認した中で理解し、ケアをどうしていくか話し合っている。主治医とも連携し対応する体制をとっている。 | 入居時に、重度化指針により対応できることを伝えている。重度化した場合は家族同席でカンファレンスを行い、主治医・看護師と連携し看取り支援をしている。事業所内で勉強会を開き、食事やケア方法を工夫している。家族の付き添い等協力を得てチームで支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年行われていた救命蘇生法はコロナ禍で今年は実施出来なかったが、内部研修などで急変時の対応・処置について学び実践する事でスキルを身に付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月あらゆる災害を想定した訓練を計画的に行なっている。今年も地域との協力体制を取る事は出来なかったが自主訓練のみ行った。また災害対策としての備品等も定期的に確認している。 | 消防署立ち会いの総合訓練を含め毎月年間計画に沿って訓練を実施している。訓練は火災・風水害・地震・噴火を想定しており、地元消防団も協力依頼をしている。水・米・コンロを備蓄する他、居室には防災頭巾が備えられている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人のこれまでの生活されてきた環境・人格・思いも含め築き上げてきたものを大事にしながら声掛けし、支援している。 | 日々の生活の中で、「さん」づけや入室時のノック、挨拶、トイレ誘導の声掛け等職員同士注意しあいながら利用者の尊厳保持に努めている。プライバシーマニュアルの見直しや職員研修を行い遵守に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に利用者様が気軽に思いや希望が伝えられる様、環境に配慮し、自由に表現できるよう寄り添った支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースを大切にしながら、一日をゆったり安心して環境で過ごして頂けるようお茶を飲まれたり、テレビ鑑賞や居室で休まれるなど本人の希望に沿った支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一日過ごされる服も自分で選んで頂いたり、定期的に衣替えなども行い、季節に合った服を着て頂いている。居室に、出来る方はブラシなど置き身だしなみをするなど環境も整えている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 利用者の好みを考慮したり、嗜好調査を行い献立を決めたり、食事作りでの調理、盛り付け、食器洗い等も職員と共に行っている。利用者が無理なく怪我なく楽しみを持って行えるよう見守りながら支援している。また畑での収穫した野菜もメニューに取り入れている。 | 嗜好調査を行い、好みのメニューを把握している。近隣からの差し入れの野菜や畑で育てたじゃが芋・夏野菜・さつま芋等を献立に取り入れている。利用者も調理に参加し、皮むきや炒め物、盛り付け等を一緒に行っている。行事食や月1回の手作りおやつ会など楽しめる機会を多く作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 午前と午後はゆったりとお茶の時間を作り、また自由に飲んで頂けるよう環境を作り、摂取量なども確認しながら職員同士でも共有している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月1回の訪問歯科診療を行っている。毎食歯ブラシやスポンジブラシ等で一人一人に合わせた口腔ケアを支援、実施している。入れ歯を使用されている方は毎日就寝前に洗浄して清潔保持している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 歩行や立位が可能な利用者は定期的に声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄の訴えの出来ない方に関しては、もよおした時の様子や行動パターンなどを確認しながら排泄誘導を行っている。また排泄状況はケース記録に記入している。 | 大半の利用者がリハパンにパットを使用している。排泄パターンを把握し、夜間時も含めトイレに誘導する等トイレでの排泄自立に努めている。タイムリーな誘導に心がけ、排泄用品を減らす取り組みをしている。失禁時は羞恥心に配慮し、他利用者に気づかれないよう着替えなどの支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄状況を記録し、職員間でも共有し把握しながら水分量を調整している。下剤を服用しなくても排便出来るよう献立に畑で採れたジャガイモやさつまいもまたはヨーグルトなど取り入れ利用者に合わせた支援をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ゆったりとした雰囲気の中で入浴して頂く為に本人のタイミングに合わせて声かけし、入浴支援を行っている。また、しょうぶ湯・ゆず湯・りんご湯など四季を感じられ、楽しんで頂けるよう工夫している。 | 1日おきに入浴をし、入浴を拒否する利用者はいない。入浴は午後で、順番や時間を利用者の希望に合わせている。また、便失禁があった場合は入浴日でも随時対応し清潔を保つようしている。菖蒲湯やリンゴ湯の他、入浴剤を使うなど楽しめる雰囲気づくりに努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室の環境や寝具状態は常に快適に過ごせる様清潔保持し、好きな時間に自由に休息が取れるよう支援している。またシーツ交換や布団乾燥機など使用するなど定期的に予定表を作成し実施している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬については、薬剤師における居宅療養管理指導を導入しており、毎回職員が処方箋内容の説明を聞いている。服用していて、体調の変化等あった場合は、家族・かかりつけ医・看護師等で連携をとり対応している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々楽しんで頂けるよう毎月行事を取り入れ、それぞれの趣味を活かして、食事作り・畑作業(野菜の収穫)・裁縫・脳トレ・箱折りなど得意な事をして頂き生き生きとまた気分転換にも繋がっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 今年もコロナ感染症予防のため日常的な外出は控えた。 | コロナ禍前は食材の買い出しや花見、紅葉狩り、初詣など外出機会が多く持っていたが今は控えている。そのため、周辺の散歩や法人で運営している園芸ふれあいセンターの畑の見学の他、庭にテーブルを出して野外お茶会を楽しむなど気分転換に努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣いは事務所に保管していて、家族と話し合いながらお金を所持している。外出時や本人が欲しいと思う物や必要としている物がある時は、家族と確認をしながら購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族・兄弟・知人など馴染みのある方に暑中見舞いや年賀状を作成し送ったり、電話等も対応出来るよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一般の住宅に近い建物で、ゆったりくつろげる畳の部屋や廊下からは畑や山、木々など自然で癒されたりと落ち着いた空間となっている。また共用の食堂には、利用者様達の手作りカレンダーが飾られ季節感も出している。 | 共用部分は民家をそのまま使い、居室は増築プライバシーに配慮した個室となっており、自宅と変わらない雰囲気が出されている。エアコン・加湿器などで空調管理を行っている。利用者による手作りカレンダーや季節の飾り、外の景色などで季節感を感じられている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間には、自分の時間も大事にしながら自由にお茶を飲まれたり雑誌を読まれたり、気の合う方との会話を楽しまれるなどご本人の居場所作りにも努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | ご本人様が居室で落ち着いてゆったり心地よく過ごせるように環境整備の配慮をしている。居室には家族の写真・バースデーカードなど飾ったり居室内でも居心地が良く安心して、また快適に過ごせる様、湿温度計も設置した。 | 入居時に馴染みの筆筒や本棚、テーブル、いすなどを持ち込み、利用者の意向を聞き、安全にも配慮しながら一緒に部屋づくりが行われている。その他テレビ・仏壇・雑誌・家族の写真等があり利用者にあった居心地の良い環境整備に努めている。温度・湿度調節は職員が行い快適に過ごせるようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとり出来る事は行って頂きながら安心安全に過ごせる様支援している。またトイレ・台所・風呂等は分かりやすいように明示し各居室も分かりやすいよう工夫している。 | | |